

1 Ha-3 食事空間を構成する要素が視覚的効果に与える影響に関する実験的検討

○ 竹原 広実 (京都ノートルダム女子大)

目的：食事空間を構成する要素がどのように空間雰囲気に影響を与えるのかを明らかにすることを目的としてシミュレーションを用いた実験による検討を行った。

方法：住宅雑誌などから抜粋した食事空間の写真77種をコンピュータに取り込み、画像処理を用いて評価対象を作成した。評価はTFT画面上に呈示される評価対象について1刺激対象につき37～50名の被験者に7段階SD法により23の形容詞対を評定項目としてそれぞれについて評定させる方法を用いた。得られたデータは因子分析、数量化理論第1類などを用いて検討を行った。

結果：評定の再現性を検討した結果、29～32のデータが得られた。因子分析の結果、4つの共通因子が析出されそれぞれ、なごやかさ因子、華やかさ因子、嗜好性因子、活動性因子と命名した。また数量化理論第1類による分析の結果、なごやかさ因子には床、テーブルの素材が、華やかさ因子にはテーブルの素材や色彩、椅子の素材といった家具の要素が、嗜好性因子には窓の大きさ、床素材、天井の形態など設計計画的要因が、活動性因子にはテーブルの素材の影響が強いことが明らかとなった。